

# ダルニー通信 082

2018  
SUMMER

特集

02 31年目を迎えて次の30年を迎えるにあたっての第一歩  
～理事長秋尾の巻頭言～



遺贈

04-05 : 遺贈と輪廻奨学金

06-07 : 遺贈について

03

MS&AD コンサート

08-09

ベトナム  
(奨学生、新潟ドナー連絡会紹介)

10

カンボジア旅行記

11

再びラオスを訪ねて

## 「民際」による平和構築と 貧困削減の担い手

冷戦構造の末期、昭和62年に民際センターは産声をあげ、2年後にはベルリンの壁が崩壊し、地球に永久の平和と安寧が到来したと喜んだ。だが自然災害が世界各地におこり、テロや難民が続発、現在、日本でも平和が脅かされる現象が顕著になった。マスメディアの信頼性の低下、ノブレス・オブリークエを持つ国家指導者も不在で、混沌とした地球になってしまった観がある。民際が民際たる由縁は一人ひとりの民が地球社会の一員として、民際活動をすること。それが平和への道であり、教育を通して貧困削減を実現する担い手で、民際主義の担い手でもある。

## 「民際」の寄付による魅力ある 社会の実現に向けた担い手

巨額な財政赤字、巨額な海外援助。失敗しても税を上げるか、国債の発行で次世代へ責任転嫁しているようにも思えてしまう。国民として嘆いても始まらない。隣より始めよう。日本の市民団体(Civil Society Organization:CSO)に寄付し、寄付社会の醸成が肝心だと思う。市民団体の方が、国内活動、海外活動でも心のこもった公共サービスができると確信する。これから30年はCSOが切削琢磨し、成長を遂げることが、魅力ある豊かな日本社会を実現する道だと思う。

公益財団法人民際センター  
理事長 秋尾 晃正

# 31年目を迎えて、 次の30年あたつての第一歩

## 「民際」が魁に！ 一般化する寄付者層現象

米国の社会現象が数年経て日本に到達するとよく言われる。伝統的な米国の寄付文化は、富裕層が社会的に認知された大きな団体に寄付するパターンだった。ICTを駆使し、少額の寄付でも確実に受益者に渡り、役立っている制度を構築した名もない小さな団体が、寄付集めに成功し、社会変化に貢献した。これにより寄付者層が、一般化し、米国の寄付の総額が拡大し、寄付社会を形成したといえる。ダルニー奨学金は1対1で繋がり、寄付者と受益者が明確である制度設計ができあがっているので、春の到来かと思われる。

## 「民際」は賽を投げた。 On-Lineに向けて

31年目に入り、Off-Lineから民際もIT革命に着手し、On-Line化を加速させる。寄付者は受益者を知りたい。寄付が有効か知りたい。可能なら交流をしたい。その現象に沿い時代に即した制度へ民際は進化する。ICT技術が、各種連絡費や印刷費の壁を乗り越え、その実現を可能にした。民際は日本の市民団体の魁として、ICTを駆使した組織として発展、進化し、日本の寄付社会の実現に向けて、魅力ある豊かな日本社会の創造に向けて、世界の平和と世界の貧困削減に向けて、皆様と一緒に活動を続けたい。

# MS&ADインシュアランス グループ 第23回 バレンタイン・チャリティーコンサート開催

～累計支援金額が1,800万円を突破～

MS&ADホールディングス  
浜 平



バレンタイン・チャリティーコンサートでの演奏の様子

去る2月16日、三井住友海上駿河台ビル大ホールにおいて、MS&AD軽音楽部とMS&ADゆにぞんスマイルクラブの共催による「バレンタイン・チャリティーコンサート」を開催いたしました。

1996年に始まりましたこのコンサートも、早いもので第23回を数える歴史あるイベントとなりました。本イベントでは当日のチケットの売上金に、グループ各社

の社員からの募金も上乗せし、その全額をダルニー奨学金として寄付させていただいており、前回までに502名の子どもたちに総額1,658万円の奨学金を支援してまいりました。

今回のコンサートにおきましても多くの皆さまにご来場・ご支援いただき、昨年に続き過去最高となる約168万円を寄付することができました。この寄付金により、新たに35名の子どもたちに奨学金を贈呈できる運びとなり、累計支援人数は537名、累計寄付金額は1,826万円となりました。ご来場・ご支援いただきましたすべての皆さんに、改めて感謝申し上げます。

今回のコンサートには当社グループ各社の社員を中心に構成される3組のバンド（総勢20名）が出演し、当社グループのチアリーディングチーム「ドルフィンズ」や三井住友海上管弦楽団とのコラボレーションも実現することができ、盛況のうちに幕を閉じることができました。

大好きな音楽を多くの皆さんと一緒に楽しみながら、未来ある子どもたちを支援できることに、メンバー一同、喜びと誇りを感じております。

来年多くの皆さんのが来場・ご支援を心からお待ちしております。



MS&AD軽音楽部、チアリーディングチーム「ドルフィンズ」と三井住友海上管弦楽団のメンバー

# 遺贈と輪廻奨学金

理事長 秋尾 晃正

## ✧民際センターの遺贈寄付専門委員

芭蕉の辞世の句に「旅に病んで夢は枯野をかけ廻る」は有名だが、芭蕉のように辞世の句は残せないが、黄泉の世まで持つていけない財産を、生きた証として、奨学金基金を創設し、未来永劫に残すのも悪くない。そんな思いから、松葉健弁護士、鈴木英子税理士、藤倉栄人不動産相談員のお三方にお願いし、遺贈の相談窓口を設けました。お三方ともボランティアで、快く引き受けくださいました。そして、創設して直ぐ初仕事がありました。

## ✧ある税理士事務所から突然の電話

「余命いくばくもないある方からダルニー奨学金団体に遺贈の話があります。急を要するので是非一度お会いしたい」という電話があり、松葉弁護士・藤倉不動産相談員と事務局長の南谷と税理士事務所を訪問いたしました。話は、その方が所有するマンションを寄付することで、ご存命なら売却後現金で寄付、間に合わなければ現物寄付という話でした。企画案を早急に作成し、ご本人に提示してもらいました。先ず、お名前をお聞きし、想定金額を割り出すため、マンションの名前を教えてもらいました。何故、名指しで民際なのか不思議に思い、その場で事務所に電話し、確認しましたところ、1998年から2005年までの民際センターの支援者で、その後移転されたのでしょうか、変更届けがなかったため、ご支援が終了になっていました。税理士事務所の方も背景を知り、納得されたようでした。想定額の予算で企画書を作成し、税理士を通し、ご本人にご提案しました。

## ✧ベトナム支援に集中する企画案の提示

急激に増える日本のベトナム進出企業。欧米のNGO数は多いが日本は非常に少ない。日本とベトナムの友好関係の構築の重要性を感じ、ベトナム支援の指針を決定しました。

## ✧中高大学の企画案

中学教育4年間の奨学金の提供で、新規中1は2018年度～2021年度まで4年間実施。

毎年、卒業生の中から数名が高校奨学金を、その3年後には大学奨学金の枠も数名網羅した企画案を作成し、提出しました。現実的には経済的に貧しい家庭の生徒が中学校を退学せず卒業するだけで素晴らしいが、貧しさにも負けず、一生懸命努力すれば、高校進学の道もあり、また大学の道も拓ける「夢」を持って貰いたい気持ちで企画案を作成しました。



教室でハートのサインを出す子どもたち



支援者の方への折鶴を折る女の子

## ✧奨学金名は 「希望基金」の命名希望

企画書には遺贈者のお名前を冠にして基金名を付けました。しかし、ご本人から「希望基金」と命名してほしい旨、連絡がありました。正に生徒たちにとっては、中等教育を修了し高等教育への思考を持つのは、人生の希望であり、奨学金名に私は感銘を受けました。



## ✧奇跡の健康回復祈願と折り鶴のメール

企画書作成と同時に民際センター・ベトナム事務所のヴァンに背景説明をしました。そのヴァンからメールが届き、写真が添付されておりました。生徒たちが赤いスローガンの幕を掲げて、「奇跡が起こり、健康の回復を祈願します。長寿を祈願します。」と記載されていました。もう一枚の写真には折り鶴が写っていました。そして、それを早速ご本人に郵送しました。

## ✧千羽鶴の実物

11月の海外出張でベトナム北部のタイビン省を訪問した折に、校長先生から、箱に入った千羽鶴を渡され、是非、ご本人に届けてほしいと依頼されました。生徒たちは何ができるか話し合い、皆が参加して小さな千羽鶴を折ったそうです。余命幾ばくもない方への心のこもった贈り物で、帰国した翌日に、税理士事務所から住所を聞き、直接本人に郵送しました。一週間後に、ベトナムへのご支援を頂いたのでした。

## ✧輪廻奨学金

企画案ではハノイから車で2~3時間ほど行ったタイビン省の7郡にある中学校に奨学金を提供し、各学校新一年生5名で10数校の生徒に奨学金を提供します。同じ中学校の先輩後輩のネットワークは勿論の事、郡を超えて全ての中学校の希望奨学生ネットワークを形成することでしょう。同じような境遇に生まれ育った生徒たちがお互いに励ます体制を整備し、卒業しても生涯の友としての連携を図れるようなネットワークを構築するのではないかでしょうか。そして、将来、仕事に就いたら、皆で僅かの金額を出し合って、次世代のための奨学金を形成し、時を越えて、末永く、希望奨学金が継続することでしょう。私は輪廻奨学金になることを期待します。校長先生は、決して恩を忘れず、輪廻奨学金になるように、ネットワークの責任者になってくれる事になりました。

終活や、現世で夢を育み、来世へ、これもまた楽しからずや



# 遺贈について

公益財団法人 民際センターでは、遺贈（遺産・相続）による相談を受け付けています。

皆様のご遺産や相続による財産をお預かりし、未来を担う子どもたちへの教育普及支援事業に活かすためです。

昨今、日本の金融資産の6割を60歳以上が所有していると言われています。一方、相続する若い人は減少しており、今では、年に40～50兆円規模の資産の大きな世代間移転が行われています。(2017年調査)

その折、相続税制が改正され、2015年1月に相続税の基礎控除が引き下げられ、相続税の納税対象者は、それまでの2倍近くに増加しているそうです。

また、生涯未婚率は、今後も上昇が予想されています。既婚であっても、ご高齢者の場合ですと、子供がおらず配偶者とも死別しているなど、法定相続人がいないケースが急増しており、死後に財産が残る場合、遺言がないと、最終的にはその財産は国庫に入ることになります。財務省の裁判所主管歳入決算明細書によると、その額は年々増加しており、2015年度には、449億円（不動産は含まれない）になっているそうです。

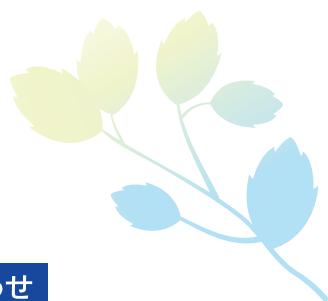
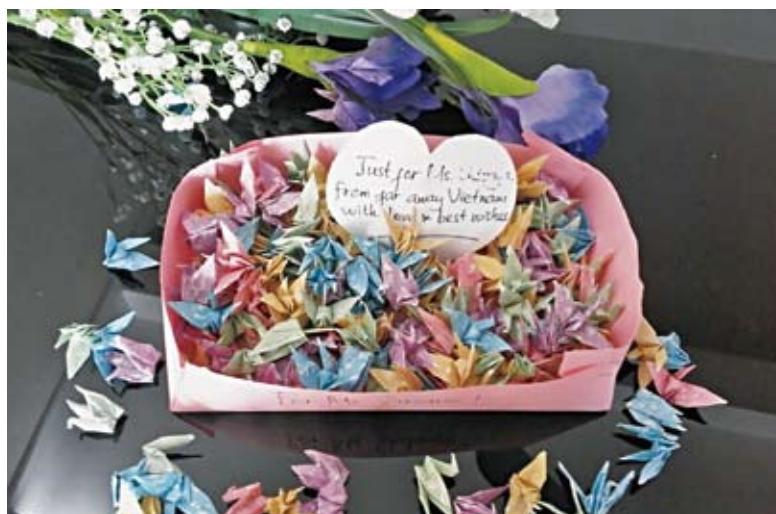
つまり、せっかく一生懸命働いてためたお金が、税金と国庫に収められていることになります。もちろん、それは、良い事ではありますが、それを、社会貢献に活用する事を考えてみるのは如何でしょうか？

高齢者の多くは社会的問題意識があり、社会に対する恩返しなどで次世代への継承概念の高い方など多数おられるのではないでしょうか。遺言を残し、遺贈寄付を公益法人等の市民団体に預託して、社会貢献に役立てたいという方々が顕著になりつつあります。民際センターにおいても過去30年の活動の中で、遺贈による寄付の経験も多数蓄積されています。

遺贈寄付は、亡くなった方々が最後に輝くチャンスを提供すると捉えることができます。

民際センターでは、人生の哲学を後世に残す遺贈をお手伝いさせていただきます。

遺言によるご寄付、相続財産のご相談、信託による寄付など、何なりとお問い合わせ下さい。民際センターと関りのある専門委員を用意してお待ちしております。



## お問い合わせ

●メールでのお問い合わせ：

<http://www.minsai.org/contact-izo/>

●電話でのお問い合わせ：

**03-6457-5782**

※受付時間は10:00～18:00

(土・日・祝日、年末年始は除く) です。

## 遺贈寄付専門委員のご紹介



### ◆弁護士 松葉健様

2007年に弁護士登録して以来、一般民事・交通事故・離婚・相続・自己破産・刑事事件等の多数の案件を取り扱って参りました。

2014年に独立してまつば法律事務所を開業し、現在は青山一丁目に事務所を構え、法律相談・示談交渉・裁判等の業務に取り組んでおります。私は弁護士業務のほか、奉仕活動にも真剣に取り組んでおり、所属する東京ライオンズクラブでの活動を通じて多くの奉仕活動に参加させていただいております。民際センターについても、東京ライオンズクラブが長年にわたりダルニー奨学金を提供するとともに、同クラブ65周年事業においてミャンマーの学校にパソコンを贈呈するなどの協力活動を行っており、私もこれらの活動を通じて民際センターの活動を微力ながら応援させていただいております。

### ◆税理士 鈴木英子様

活動開始以来30年の歴史と長年の協力者にささえられている民際センターが、この程、遺贈寄付に関する相談の窓口の設置に関し、声をかけていただき喜んで一員に参加させていただきました。

遺贈者にも、そして残された家族のためにも、遺贈寄付が円滑に進むためにはどのような手続きが必要とされるのか等、予め遺贈による寄付に関し理解を深めていただけますよう、遺贈寄付の税務に関する相談役として皆様にアドバイスさせていただきます。

1981年に税理士登録をし、1985年に東京の渋谷区に独立した事務所を開設しました。開業当時、民際の活動の原点となった秋尾理事長が設立した（財）北海道国際交流センターの第一期の財団の決算報告を、ボランティアでお手伝い致しましたのがきっかけでした。1978年に任意団体で発足したその活動は日本の草の根国際交流の草分けで、財団化に伴い道庁への決算報告が必要であり、それ以来30年以上お手伝いしております。

任意団体として1987年の民際センターの創設後も引き続き、民際の趣旨に賛同し、税理士の立場から民際のお手伝いをしております。

税制優遇措置を取得するための公益財団法人化の折も、公益会計基準に合わせた会計ソフトの整備等いろいろとお手伝いをいたしました。

### ◆不動産相談員 藤倉栄人様

遺贈された不動産が、恵まれない子供たちに確実にお役に立つよう、専門知識とネットワークをもってご協力させて頂きます。

特に、法定相続人がいない方にとっては、国家に接収されてしまうご遺産が、自分の名前を冠した奨学金基金など末永く社会に残るわけですし、相続人がいる方でも、一部を民際に遺贈頂くことで、多くの恵まれない子供たちが教育を受けることが可能となるわけです。従って、お預かりした資産最有效利用することの責任は重大で、そのノウハウをご提供させて頂きたいと思っております。1980年、早稲田大学法学部を卒業と同時に大手不動産会社の東京建物に入社。仲介業務、開発業務、ビル業務、米国駐在等を経験し、2016年に定年退社しました。

1989年に民際のドナーとなり、多くのタイの中学生に奨学金を送ってきたほか、民際事務所の移転の際などには物件探し等のお手伝いもしてきました。現在は不動産投資業に携わっておりますが、専門知識と在職中に築き上げたネットワークを生かして、民際の相談員としてお役に立てれば幸いです。

# ベトナムのダルニー奨学生紹介

理事長の秋尾が、ダルニー奨学生宅を訪問しました。その模様をお伝えします。



ハノイから車で2時間程度の距離にあるタイビン省を訪問し、奨学生宅を訪問した。タイビン省での奨学生事業は、タイビン省赤十字の協力の下、行われている。タイビン省赤十字は地域レベルまで浸透しており、より貧しい子どもに提供することが可能となっている。

その後、奨学生宅を訪問した。彼女の名前は、グエム・ツイ・リン(中1・女子)。彼女の父親は、肝臓癌で既に亡くなっている。夫が亡くなつたため、母親は家族を養うために早朝から夜遅くまで日雇いの仕事に就いている。

私が訪問すると、彼女の祖父と叔父が現れた。彼らは、ベトナム戦争に徴兵された。枯葉剤の影響を受け、何度も手術を受け、現在も病気がちだ。祖母は、ベトナム戦争時に、近くで爆弾が落ち、鼓膜が破れた。その影響で、今も耳が聞こえない。

このような家族をリンちゃんの叔母が一人で面倒をみていく。私が一言、「お世話が大変ですね」と言った途端、私の同情の言葉で、涙腺が緩み目から突然大粒の涙。自分を犠牲にして献身的に家族の面倒をみてきた。張り詰めた気持ちが緩んだに違いない。私の目からも涙。

ベトナム戦争の影響を直接受けたリンちゃんの祖父母の世代、そしてベトナム戦争の影響を間接的に受けた父母の世代。少なくとも三世代目となるリンちゃんの世代は教育を受け、希望をもった人生になるよう祈念したい。



奨学生の家を訪問する秋尾理事長



## 新潟ドナー連絡会、二の1年

赤石 隆夫



にいがた・アースフェス 2017の様子

かれこれ20数歳になる「新潟ドナー連絡会」の活動の1年を振り返ってみると、まず思い起こされるのが、2017年5月3, 4日の両日、恒例の「にいがた・アースフェスト2017」が新潟市内にて開催され、数年来“助っ人”に駆けつけてくれるベトナム留学生と共に設けた広報ブースです。市内在住の留学生が彼らのスケジュールを調整し、ベトナム向けダルニー奨学金の為に奔走してくれました。

た。艶やかなアオザイ姿の彼らと試飲珈琲、ITを駆使した広報には道行く市民も無視できません。多くの方々からの募金があり、2名分の奨学金が確保されました。彼らの活躍は11月26日「にいがたNGOネットワーク(Nネット)」主催の「第8回にいがた国際フェスティバル」でも遺憾無く発揮されたことは言うまでもありません。また、これを遡る7月にはNネット総会の特別講演で(公財)民際センターが指名され、不肖世話人が過去30年の民際の活動について市民ボランティアの皆様に紹介させていただきました。定例の県や市の国際交流団体会議にも漏れなく出席し、図々しくも県や市内における民際センターの活動を広報してきた世話人です。その世話人や連絡会会員も歳を重ね、広報活動の度に駆けつけてくれる若い力をとても嬉しく感じるこの頃ですが、全国ドナー連絡会の活動報告に刺激され、いや、まだまだ…と鞭打つ2018年にして行きたいと思っています。



第8回にいがた国際フェスティバルの様子



## NGOゴスペル広場のカンボジア旅行記



2008年の設立以来ダルニー奨学生を支援しています。カンボジア、ラオス、タイ、ベトナムの4か国を支援し、その中でカンボジアは今年度93名の奨学生がいます。

現地を訪れるツアーは、2012年のラオス、2013年のカンボジアに続き3回目。これまでで最も多い13人の参加メンバーが集まり、カンボジアのコンポンチュナン県にある小中学校を訪問しました。

ゴスペルチームならではの歌や踊りでの交流をはじめ、折り紙やしゃぼん玉など、子どもたちとたくさんの交流の時間を持ちました。特に、プレゼントとして持つて行った新品のサッカーボールは大好評、男の子たちは日が暮れるまでサッカーに没頭しました。

訪問の目的であった、図書の寄贈、奨学生との対面、自宅訪問、学校見学や教員との対談も実現し、



民際センターは、多くの支援者の方々に支えられています。支援者の方の中には、現地に足を延ばされ、支援がどのように行われているかを確認される方もいらっしゃいます。

今回は、2017年11月にカンボジアを訪れたNGOゴスペル広場の旅行記を紹介します。

「ゴスペル×国際協力」を実践するNGOゴスペル広場 (GQ Family) では、



支援の内容や意義について実感として知ることができた4泊6日となりました！

実際に現地を訪問されたことにより、支援しているカンボジアのことをより身近に感じることができたのではないでしようか。また、カンボジアの抱えている問題について考えるようにもなったことだと思います。

# 再び ラオスを訪ねて 井上文子

ラオスに  
かけがえのない思いが  
ありました！



「こんなに、ものすごい悪路を毎日彼は、モーターバイクで1時間以上かけて学校に通っているんだ！」——深い森の中の、真っ暗なガタガタ道を走る車の中から見た、あまりに過酷な通学状況に、頭をガチーンと打たれたようにショックでした。

この2時間前、私は父の遺産で建てたサワンナケート県のドンパイヴァン中学校の歓迎会に参加していました。中学生達の披露してくれる「ラオス舞踊」に、うつとり見とれています。

2年前に建てた「ドンパイヴァン中学校」を再び訪問したいと民際センターのスタッフに相談したところ、「建てたばかりの新しい立派な学校だけを見ていると、生徒達の本当の貧しさが分からぬるので、奨学生の自宅も訪問されたらどうですか」と提案されました。当初は「どちらでもいいな」と思っていたのですが、日本に帰って数日経った今「訪問して本当によかった」と思っています。

命をかけて通学する世界の子供達のドキュメンタリー「世界の果ての通学路」と重なり、そこまでして学校に通うという現実に、日本との違いを重く感じるのです。日本の子供達はあまりにも過保護で恵まれていて、それが当たり前の世界で生きている。

山々をバイクで列を作りながら、駆け抜け通学している彼らを見ていると、限りないたくましさを感じ、ラオスの未来を背負っていく大人になってゆくだろうと思いました。勉強が大好きだったけれど、家が貧乏で学校へ行けなかった父の遺産を引き継いだ私は、民際センターを通じてその遺産でラオスに中学校を建てることができました。そして、私自身も父のお陰で、広い世界を見ることが出来、今回一緒にラオスの歓迎会に参加してくれた、仕事仲間でドナーでもある友人が「今まで30回海外に旅行したけれど、一番内容の濃い旅行でした」と言っていました。

父の墓前に報告しよう！「お父さん、ラオスの子供達は、大変な思いをして学校に通い勉強しているよ！ラオスのためにはきっと立派な社会人になるよ！」と。父もきっと喜んでいふとおもうのです。



訪れた井上さんを歓迎する  
ラオスの生徒たちの様子



井上さんと奨学生



井上さんにご支援頂いた学校

# 事務局活用リスト

事務局では様々な資料やサービスを用意して支援者の皆様のお問い合わせやご要望にお応えしています。  
※ご利用につきましては、以下の要領でご連絡ください。

## 民際センターのボランティア活動がしたい

翻訳、PC入力、DTP、ホームページ作成、事務作業などのボランティア活動を希望する方を募集しています。電話またはメールでお問い合わせ下さい。

### ＜ボランティア活動に関する秋尾理事長のつぶやき＞

民際センターの事務局は数人で運営されています。皆様のボランティア活動はとても助かります。

具体的な活動としては、

1.地域のボランティア（自分たちの地域での活動を企画して頂ける方）

2.在宅ボランティア

・翻訳（英語）ができる方。上手下手は問いません。ホームページの翻訳（最後はネイティブの方に仕上げて頂きますのでご心配なく！）をお願いします。

・ICTボランティア（システムエンジニア、Web-Marketingに精通している方）

・専門職ボランティア（色々な専門職の経験を生かして、民際センターの活動や対象国で役立つことができます。）

3.事務局訪問型ボランティア

・事務局の事務作業等、データの入力のお手伝い  
があります。我こそは！もしくは、興味がおありの方は是非是非お問合せ下さい。

## 遺贈に関する話が聞きたい

民際センターでは、遺贈（遺産・相続）による寄付を受け付けています。皆様のご遺産や相続による財産をお預かりし、未来を担う子どもたちへの教育普及支援事業に活かすためです。お気軽にお問い合わせください。専門委員とともにお待ちしています。ホームページよりのお問合せも可。

### ＜編集担当の独り言＞

アメリカでは人口の30%以上がリビングウィル（自分の生き後どうしてほしいのかという意思）を常に準備しているそうです。それに比べて日本はなんと3%ぐらいの人しか残していないそうです。かくいう私もその97%の一人です。自分の亡くなった後の事なんて想像もできません。「あとはよろしく！」と冗談で家族に話したりはしますが、本当にそうなったら困っている家族の顔が浮かびました。皆さんも周りの人のためにリビングウィルを考えてみませんか？

## 奨学金の説明を聞きたい

お電話またはメールにてお問い合わせください。ご説明させていただきます。

## 毎年忘れずに送金したい

民際センターHPよりクレジットカードによる寄付にて自動継続による引き落としをご選択ください。

（すでにご支援をされている方で、途中から自動引き落としにすることも可能です。お問い合わせください。）

## タイの奨学生と文通したい

- ①手紙の翻訳
- ②タイ切手の購入

- ①日本語⇒英語に翻訳します。手紙の原本と返送用の82円切手一枚を同封してください。メールにても受け付けています。
- ②タイ切手セット（12回分1,000円）の代金は郵便定額小為替か現金書留でお願い致します。82円切手を貼った返信用の封筒も同封してください。

## 民際センターの運動に参加したい

- ①書き損じはがきの収集
- ②インターネットチャリティーへの参加
- ③募金箱を設置したい

ホームページで案内しています。また、電話またはメールでもご説明していますので、お気軽にお問合せください。

### 編集後記

昨年4月から民際センターで働き始め早や一年余り。ダルニー通信の編集を任せ身の引き締まる思いです。前任者が注いでいた情熱をそのまま受け継ぐべく、日々奮闘中です。何分至らない部分も多いのですが、皆様に支えられてようやく編集を終えることができました。心より御礼を申し上げます。今後とも支援の必要性を少しでも皆様にお伝えできるよう、頑張って参りますので何卒よろしくお願い致します。（山）



一般財団法人  
民際センター

ダルニー通信82号 2018年6月1日発行 発行人：秋尾晃正  
公益財団法人 民際センター 〒162-0801 東京都新宿区山吹町337江戸川橋東誠ビル5F  
TEL:03-6457-5782 FAX:03-6457-5783  
Eメール: info@minsai.org ホームページ: http://www.minsai.org  
振替口座: 00160-7-664928